

平坦になって水量も少なくなってきた。ここで遊行を打ち切る。

(記)

「タイム」 出合(一〇:一五) ↓ 終了

(一一:二〇)

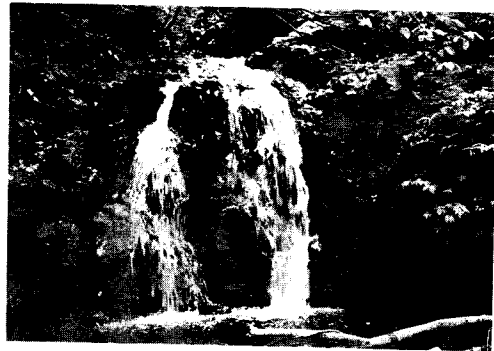
小滝を越えてゆくと、左岸よりカレ沢が入る。上に八びの滝が見えている。ガレ場が出てくると、本流の方にも滝が出てくる。まず、三びの滝があり、その上で左岸から一五びの滝をつけた小沢が入る。そして一〇びの滝。右岸を直登する。その上の三びは、何なくパス。ここがこの沢の核心部だ。

沢が平凡になった。しばらく進むと、踏跡が沢を横切っている。ここでマタタビを探る。秋の沢登りには、こういった楽しみもある。

カレ沢が四つ次々と合流し、沢が

クゾハナ沢

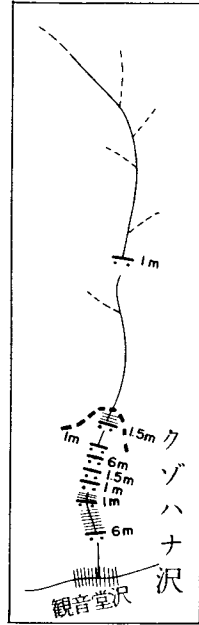
観音堂沢ぞいの道をクゾハナ沢の橋の手前まで歩き入渓する。出合からヤブのおおいかぶさる沢で、小滝、



クゾハナ沢

一九八三年一〇月一五日

それも一びほどのがあるだけで、大きな支沢もなく、ヤブをかきわけながらの遊行となった。水のなくなっ



(記・エ)

「タイム」クゾハ

ナ沢出合(一

二:〇〇)↓遊

行終了(二二:

三〇)↓路跡(二三:二〇)

追記 橋より下部の記録は、クロ

ノ沢の項を参照のこと。

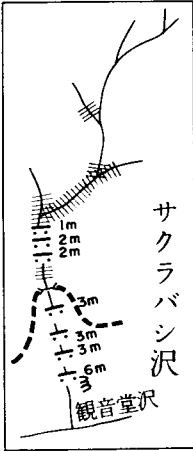
た所からはヤマブドウなど蔓性の植物をかきわけながらのヤブコギで五郎山の中腹にある路跡に出て、サクラバシ沢の下降に移る。

サクラバシ沢

一九八三年一〇月一五日

到着。一応橋の下も下降して観音堂

現在地を確認して下降にかかる。五分程で水が出てきた。クゾハナ沢とちがってヤブはひどくなく、楽な下降となった。やがてナメが出てくる。途中に小滝が三つあるだけで、ナメの中をスタスタ歩く感じで橋に



サクラバシ沢

沢まで下ってみたら、こちらにはまず三つ、続いて二・五が二つ、そして最後に六が斜瀑と小さいが滝が続いていた。(記・

「タイム」 下降開始(二三:二五)↓

橋(一四:〇〇)